2021 年 5 月 21 日
トヨタ紡織株式会社

2020 年度 期末事業説明会 質疑応答要旨

Q１：2021 年度通期予想 営業利益 720 億円、営業利益率 5.1%に寄与している取り組みを教えて欲しい。

Ａ１：固定費の更なる効率化と原価低減を図り、将来の成長予算を確保しながら、既存コア製品の拡販や新規 OEM の獲得により、収益を向上していく。2021 年度は将来に向けた先行投資を行う一方、グローバルに立ち上がる新製品が多く、増産効果・新製品効果を踏まえ、720 億円と予想している。

Q２：米州地域において新しい SUV の導入があると聞いているが、 インディアナ地区の工程移管は上手く進んでいるのか。

Ａ２：ドアトリムをインディアナ地区からケンタッキー地区へ 2021 年末までに集約。シート骨格の溶接をテネシー地区へ 2023 年を目処に集約する。新たな SUV をしっかり受注できるよう再編を進めていく。

Q３：ロングスライドレールの仕組み、工夫した点を教えて欲しい。

Ａ３：前後スライド荷重可変機構（くさび機構）により、通常のロングスライドレールが持つ前方に移動するときは滑り、後方に移動するときは重いという課題を解消することで、操作性を改善している。米州地域において、シエナに採用されており、今後は電動化も計画している。

Q４：2025 年度のロングスライドレール 100 億円、ワンモーターパワーシート 20 億円の売上収益について、内容を教えて下さい。

Ａ４：シートアッセンブリでの売上から、ロングスライドレール、ワンモーターパワーシートそれぞれの付加価値分を抜き出して積み上げている。ロングスライドレールはシエナに採用が決まっており、今後はファミリーミニバン、高級ミニバンを中心に拡販を図っていく。ワンモーターパワーシートはヤリスクロスに採用されており、今後は新たなエントリー車種への拡販を目指していく。

Q５：営業利益が 700 億円を超え、収益力が高まってきているが、自助努力など内部要因と、SUV など車種構成による外部要因の両方で、利益が改善しているという理解でよいか。

Ａ５：SUV など我々に有利な車種の需要増といった外部要因もある。一方、内部では車種構成変更への対応として、要員管理、設備能力の向上、工程の切換え等がこの 3 年間で上手くできるようになってきた。また先を見据えた経営の実現に向けた財務の見える化が進んできた。あわせて、環境変

化に対し、クロスファンクショナルな対応ができるようになってきた。さらにグローバルに収益力を高めていくために、チーフオフィサー制を導入した。

Ｑ６：新聞等で報じられている通り、来期のトヨタ自動車の生産台数が 1040 万台ならば、来期の売上は 1 兆 5,000 億円を超えるということはないか。また相応の利益を期待してよいか。

Ａ６：2021 年の売上収益 1 兆 4000 億円は昨年 12 月時点の生産台数を前提としている。報道の様に足元の生産台数は好調であるが、半導体やナイロン材などの供給不足や、コロナ影響等のリスクも懸念されるため、今後の状況を注視していく必要がある。利益については、2020 年度にあった価格協力の減免や補助金などが無くなるほか、緊急対応で減らしていた固定費の戻りや、将来に向けた先行投資があるが、営業利益見通しの 720 億円を達成していきたい。

Q7：モーターコア、ＦＣＶなど電動化関連が今後どれくらい増えてくるのか見通しを教えて欲しい。

Ａ７：電動化関連はハイブリッド用モーターコア、ＦＣ関連部品、リチウムイオン電池がある。2025 年にはユニット部品事業の売上の 15%を目指して拡販をしていきたい。お客さまと実現性を確認しながら投資を行い、型メーカーなど仕入先とも協力して取り組んでいきたい。

Ｑ８：内装システムサプライヤーについて、ＥＶ車の増加により車室空間が専門メーカーに任せられることにより、2025 年の売上収益が 300 億円より増えることはないか。

Ａ８：内装ＳＳの業務については、日本・中国・タイで行ってきたが、北米・欧州に拡大していく。また、先行開発の段階から我々が参画し、付加価値の拡大をしていく。品目としてはインパネ、ドアモジュール、NV 部品、オーバーヘッドコンソール等を拡大して 300 億円を超える売上収益を目指していく。

Ｑ９：豊田合成と芦森工業の資本業務提携が発表されたが、御社とシートも含めた連携がより強化されていくことはないか。

Ａ９：シートベルトは東海理化、エアバックは豊田合成と協業しており、2019 年の東京モーターショーで「オールインシート」として、エアバック、シートベルトを格納したシートを展示している。その関係もあり、今後の事業の進め方において、エアバック、シートベルトを一体化したシートの開発を念頭に置いている。

以　上